

Living the LOTUS

Buddhism in Everyday Life

開祖隨感

協力者を得る方法

商売でも、どうしたら売れるようになるかではなく、買ってくださる人の気持ちをいつも考えられるようになれば成功間違いなしだ、といわれます。人と人の関係の極意も、そこにあるのです。それが、初めはみんな逆なのです。自分の考えだけが正しいと相手に押しつけてしまう。自分の意のごとくならないと気が済まない。これを自分勝手というのです。それでいくら力んでも、まわりは自分の思いどおりにはなりません。

ですから私は、まず相手の意見を受け入れてしまふことにしているのです。そして、それに自分の

考えをどう合わせられるか、調和させていけるか、考えるようにしてきました。そうすると、どんな人も安心して自分の力を出しきってくれるのです。

いくら自分の意見を通してみたところで、一人の力でできることには限りがあります。自分と一つ心になって協力してくださる人材を、どれだけ得られるか。大事なのは、そこです。「みなさんが菩薩の行をなさる方だ」と挙げる心になると、こっちの我など張る必要は、まったくなくなるのです。相手に合わせる気持ちになれば、相手も必ずあゆみ寄ってくれます。心と心は必ず通じ合うものなのです。

(『開祖隨感』9 p. 124-125)

Living the Lotus
2018年8月号 (Vol.155)

【発行】立正佼成会 国際伝道部
〒166-8537 東京都杉並区和田2-7-1
普門メディアセンター3F
Tel: 03-5341-1124
Fax: 03-5341-1224
E-mail: [living.the.lotus.rk-international
@kosei-kai.or.jp](mailto:living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp)

編集責任者: 斎藤高市
編集チーフ: 金尾江利子
校閲者: 竹谷祐市郎、小坂和正、菊池克之
編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼脇祖によつて創立された、法華三部経を所依の經典とする在家佛教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鑑会長とともに、私たち会員は佛教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life(法華経を生きる～生活の中の仏教)というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。

敬う心と恥じる心

立正佼成会会长 庭野日鑛



仏さまからのアドバイス

今月は、「ハ正道」の「正行」について考えてみましょう。「正行」は、仏教の辞典で「正業（正しい行ない）」とも示され、「身・口・意の三業」といわれるうちの、「身の行ない」（身業）における正しいあり方のことです。ちなみに、本誌の六、七月号でお伝えした「正思」と「正語」も、それぞれ三業の一つである、心による行為（意業）と、言葉による行為（口業）の正しいあり方ということになります。

それでは、正しい身の行ないとはどういうことでしょうか。解説書には、不殺生、不偷盜、不邪淫の三つ、すなわち「生き物を殺さない」「盗みをはたらかない」「邪な男女関係を結ばない」ことが、正しい身の行ないとあります。

法句経に「すべての者は暴力におびえ、すべての者は死をおそれる。己が身をひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ」（中村元訳／岩波文庫）とあるように、自分が殺されたり、何かを盗まれたり、道ならぬ関係で苦しむ立場になることを思うと、人さまに対してけつてそのようなことはできません。

釈尊は、私たちがこの世で味わう苦から解放される道を悟られた方ですが、何が苦悩の原因となるのかを見極められたうえで、これらを示されたのでしょう。その意味では、いま戒めというよりも、私たちが日々を明るく、楽しく生きるための助言と受けとめるほうが自然に思えます。「このことを忘れなければ家庭も社会も平和で、楽に生きられますよ」という、釈尊からの温かなアドバイスということです。

「正行」が当たり前に

「生き物を殺さない」「盗みをはたらかない」「邪な男女関係を結ばない」ことが正しい身の行ない——確かに、それは正しいに違いなく、殺生や盗みは法律に、ふれる

対象でもあります。それでも、「してはならない」という禁止事項が「正しい行ない」といわれると、心理的に「正行」のハードルが高く感じられます。そうであれば、「戒律を守らなければならない」と意識する以前に、いつでも自然に、「苦悩しないですむようない行ない（正行）をせざにはいられない」ようになればいいのです。

そこでキーワードになるのは、^{うやま}敬う心と^は恥じる心です。

私たちは、仏教徒として仏さまを敬い、「仏さまのようになりたい」という願いをもって精進しています。ただ、そのなかでは、しばしば至らない自分に気づかされます。

それは、安岡正篤氏が「敬という心は、言い換えれば少しでも高く尊い境地に進もう、偉大なるものに近づこうという心である。したがってそれは同時に自ら反省し、自らの至らざる点を恥ずる心になる」（『安岡正篤一日一言』／致知出版社）と述べているとおりですが、私たちにとって救いになるのは、その先です。この言葉は、こう続きます。

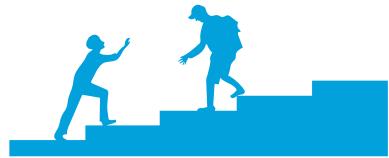
「省みて自ら懼れ、自ら慎み、自ら戒めてゆく」——敬して己を恥じる心が生まれたら、おのずから至らない自分を危ぶみ、神仏の願いにそった行動を心がけるようになる、というのです。これは「仏とその教えに帰依すれば、正行が当たり前の人間になれる」と受けとめることができます。

また、敬う心と恥じる心は、進歩・向上を求める人間の本能に通じるともいわれます。すると、つい^{われ}我を忘れて道を踏みはずしそうになる私たちを、本来の人間らしい生き方に立ち戻らせるのも、この二つの心といえましょう。

「正しい行ない」とは、「敬と恥」の二つに支えられたふるまいということができそうですが、その心と行ないは、日ごろの人間関係から国家の関係に至るまで、そこに和を築く大切なものです。それは、道を見失いがちなあらゆる場面でいま、大きな力を發揮するものだとと思うのです。

（『佼成』2018年8月号）





正しく、ありのままを見ることが得られる喜び



バター・アリウナー
本部直轄拠点ウランバートル支部

この説法は、2018年4月15日にウランバートル支部で行なわれたご命日式典で発表されたものです。

仏さまのご命日というこの佳き日に説法のお役をいただき、たいへんうれしく思います。私の名前はバター・アリウナーです。1966年に生まれました。娘が二人います。私の専門は食品の開発ですが、会計士の資格も持っています。2005年にウランバートル支部のゾリグマ支部長さんにお会いしたことが入会のきっかけになりました。ゾリグマ支部長さんに誘われ、ウランバートル支部のご命日式典やイベントに何回も参加させていただきました。しかし、すぐ入会したいという気にはなりませんでした。なぜなら、私は若い時から信仰には無関心で、仏の存在を信じていなかったからです。大学卒業後、モンゴル仏教の代表的なお寺であるガンダン寺の僧侶と「仏はいる・いない」で口論になったことさえ



ウランバートル支部で説法をするアリウナーさん

ありました。その頃、私は大学の哲学科の科目を満点の成績で修了していて、自分は何でもわかっていると思い傲慢になっていました。今、その頃の自分を思い出すと恥ずかしくてたまりません。

校成会の式典に何回も参加させていただいているうちに、ゆっくりですが、仏さまの教えや校成会の教えに対する理解が深まり、「まず人さま」「人格向上」「皆の幸せ」を目指す校成会の教えを素晴らしいと思えるようになりました。さらに、ウランバートル支部の会員さんとの温かいふれあいと法座に心を引かれ、次の集いの日を心待ちにするようになりました。そして、2009年に入会させていただきました。

入会して間もなく、ゾリグマ支部長さんからご指導をいただき、教務のお役をいただきました。入会直後だったため、「まだ教えについてわからないし、知らないことだらけなので」と言ってお断りしたのですが、ゾリグマ支部長さんに「教えを学んでから実践するのではなく、学びながら実践することが大事」と教えていただき、お役をお受けすることにしました。そして、ウランバートル支部と地方拠点で布教をし、儀式儀礼作法を会員さんにお伝えしています。また、立正校成会本部による「モンゴル看護師育成支援プロジェクト」で学生募集・育成等に携わるお役や、支部会計のお役、バヤンゴル地区の担当主任のお役もさせていただきました。

2011年から2012年にかけて本部で開催されたリーダー教育に参加させていただき、世界中の素晴らしい菩薩たちと友達になれました。海外教会の皆さんのがどんなことでも仏さまの教えに照らして受け

止めるすがたに感動し、私も皆さんのようになりたいと思いました。

2017年10月、私は教師資格を授けられ、今年の5月にはウランバートル市から約350キロ離れたエルデネット法座所のご安置式の準備をするメンバーに選ばれました。このお役を通して、自分の心をより深く見つめ直す機会をいただいていることを感じています。

7月1日、エルデネット法座所に、ご本部から新しいご本尊を安置するお手配をいただきました。その準備のため、5月8日と9日、ウランバートル支部からゾリグマ支部長さん、ゾリグトさん、会計、私の四名でエルデネット法座所へ行かせていただきました。法座所に到着した時、現地の担当主任さんは席に座ったままで、私たちを気持ち良く迎えてはくれませんでした。到着後、ご供養をさせていただいたのですが、現地の担当主任さんがご供養に加わらないで何か別なことをしているのがとても気になりました。ご供養のあと、担当主任さんにエルデネットの布教の現状や会員動態について、また法座所の経理について尋ねました。すると主任さんの顔色が変わり、「私たちは教えをきちんと学んでいるし、お役も一生懸命にやっています。なぜ私たちの努力を認めてくれないのですか。廣瀬次長さんがいらっしゃった時には私たちを褒めてくれました」と言ったのです。私はその主任さんの言葉を不服に思い、さらに「遠くから来た人を立って迎えるのは常識ではないか」と思って、心の中で主任さんを責めしていました。

しかし、そのとき、会長先生の「善悪で判断しないでのままに見る」「違う角度から見る」「人の良いところを見る」という教えを思い出しました。冷静を取り戻すことができ、周りをよく見ると、その日現地の主任

さんは小さなお孫さんを連れてきていたことがわかりました。いつもはご供養に参加しているはずの主任さんは、その日は孫の面倒を見なくてはならないため、一緒にご供養ができなかったのです。また、主任さんはお布施があまり集まっていないことを気にして、あのような発言をしたのかなと思いました。すると、現地の主任さんが努力している姿が見えてきて、仏性礼拝をさせていただくことができました。

実は3月に、フブスグル拠点へ布教に行かせていただいた時も、同じようなことがありました。フブスグルの担当者にはそれまで会ったことがなかったので、どんな方かなと思いながら、布教に行かせていただきました。実は今回の布教の背景には、ゾリグマ支部長さんから任せられたある使命がありました。昨年、フブスグルの担当者はお会式・一乗まつりに参加したいとウランバートル支部に希望を出したそうです。しかし、当時その担当者は癌の治療中だったため、ゾリグマ支部長さんは体調のことを心配して「今年はお会式に出ない方がいいよ」と伝えたそうです。ところが、その言葉がフブスグルの担当者を傷つけてしまったようで、その後、その方から「お役を辞めたい」と言う電話がウランバートル支部に来るようになったのです。そのため、フブスグル拠点への布教を前に、私はゾリグマ支部長さんから「現地の状況を把握してください」と言われていたのです。

エルデネット法座所のときと同じように、私たちが到着した時、フブスグルの担当者も座ったままで私たちに挨拶しました。私の常識では、遠くから来た人を迎える時は立って挨拶をするのが当たり前なのですが、座ったまでの応対でしたので、最初はびっくりしました。

しかし、私はとにかく現地担当者の良いところを見て

いこうと考え、素晴らしいと感じたところをお伝えさせていただきました。そして、担当者の病気平癒のために、その方を含めた 8 名の現地会員と一緒に、祈願供養をさせていただきました。すると、担当者の表情が穏やかになっていくのがわかりました。ウランバートルに戻ってから、その方からゾリグマ支部長さんに電話があり、お役を続けてくださることになったことを知り、私はとてもうれしく思いました。

佼成会に入会して教えに出会うことがなければ、このような見方は私には決してできなかっただろうと思います。それができるようになったのは、「今を大事にする、正しく見る、ありのままを見る」ことの大切さを教えていただいているお陰さまで。

昨年、教師資格取得者のための事前教育を通して、私は戒名の意義を学ばせていただきました。以前から、「亡くなったお母さんに戒名をいただいて、ご供養をさせていただいたらいかがですか」と、ゾリグマ支部長さんから何度も勧められていましたが、戒名の意義がよくわからず、「また次の機会にします」と言って避けていました。しかし、教師資格の授受をとおして、戒名の意義について理解を深めることができ、私は母に戒名をいただいて、今はご供養をさせていただいている。

現在、私はウランバートル支部で戒名申請の受け付けて、ご安置のご供養をあげるお役をさせていただいている。以前の私は、自分の都合に合わせてご供養のお役をしていました。しかし、現在はお役を優先し、戒名をいただきたいという方がいれば、すぐにご本部に申請をし、いただいた戒名をお渡ししています。そして、自ら追善供養をさせていただきたいと思うようになりました。戒名をいただいた人から「戒名をいただき、ご供養をさせていただいて良かった」という報告を受けると、とてもうれしく、温かい気持ちになります。

昨年、戒名申請をしてくださっていたエルデネット法座所のある会員さんに、さまざまな事情があつて戒名をお渡しするのが遅れてしまいました。今回の布教でその会員さんに戒名をお渡しさせていただき、遅くなってしまったことをお詫びし、一緒にご先祖のご供養をさせていただきました。ウランバートル支部へ戻ってから、その会員さんが戒名をいただけたことに感謝してご供養を続けていると聞き、とてもうれしくなりました。

入会当初、私は人づきあいが不得手で内向的な性格のため、感謝の気持ちを言葉にすることはできませんでした。また、困っている人を見ると、助けてあげたいと思うのですが、恥ずかしくてなかなか行動できませんでした。

入会してから来年で 10 年になりますが、現在の私は教えを学び、法座にたくさん座させていただいたお陰さまで、自分の気持ちを表現することが苦痛ではなくなりました。例えばバスに乗った時、バス代が足りなくて困っている人がいれば、すぐに足りない分を渡してあげられるようになりました。困っている人に手を差し伸べることが、恥ずかしくなってきたのです。また、一人でも多くの人に佼成会の教えをとおして幸せになってもらいたいと願いながら、教えをお伝えさせていただいている。

私はこれまで 5 名の方々に佼成会のことをお伝えし、道場にご案内しました。しかし、仕事が忙しいからという理由で、その後はお誘いしてもなかなか道場まで足を運んではくれません。しかし、私自身も入会するまで時間がかかったので、彼らのありのままのすがたを受け入れ、時が来るまで温かく見守りながら、声をかけていきたいと思います。

このたび、エルデネット法座所のご安置式を迎えるにあたり、ウランバートル支部を挙げて応援させていた

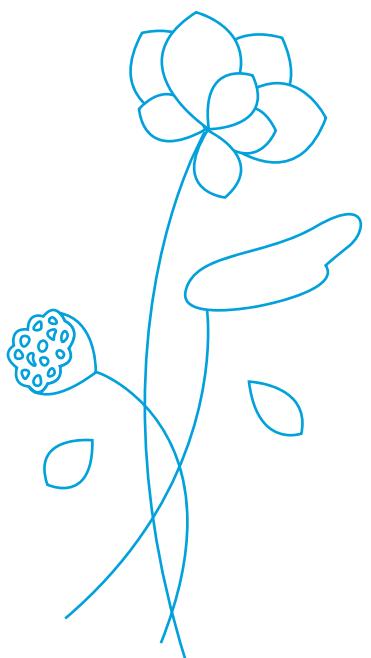
Spiritual Journey

だこうと、特別な喜捨箱を作り、率先してお布施のお願いをさせていただいております。また、本部で開催される勧請式に参加されるエルデネット法座所の2名の会員さんを支部で受け入れ、一緒にご供養をさせていただき、儀式儀礼作法をお伝えさせていただきました。エルデネットの主任さんの気持ちを大切にし、これからも私にできる最大限の応援をさせていただきたいと思っております。

教えのお陰さまで私は以前より明るく、心が穏やかになりました。今後も教えを学び、実践させていただきたいと思います。このような素晴らしい道に導いてくださったゾリグマ支部長さんに心から感謝を申し上げます。そして、常に私を支えてくださっているサンガの皆さんに心から感謝を申し上げます。



ご供養で導師を務めるアリウナーさん



無量義経 説法品第二

法華三部経 各品のあらましと要点

性・相・空・寂

「無量義という法門こそ、皆さんを最高無上の悟りへ導くものです。それはどんな法門かといいますと、先ず次のことを見極めることからはじまります。

すなわち、〈この世のあらゆる物事のありようは一切が平等で、常に大きな調和を保っている〉ということです。われわれが肉眼で見る現象は、大きいとか小さいとか、生ずるとか滅するとか、止まっているとか動いているとか、さまざまな差別や変化があるように見えますが、その根本においては、ちょうど虚空というものがどこをとっても同じであるように、ただ一つの真理(法)に基づくものであることを見極めねばならないのです」

これが〈すべての物事は性相空寂である〉という教えです。〈性〉とは、物事の性質をいい、〈相〉とは、その性質が表にあらわされた相をいいます。

〈空〉とは、すべての物事は縁起の法則によって存在しているのであって、あるものが絶対的存在であるとか、すべての物事の根源の存在である、というものは何もないということです。のことから、すべての物事はその本質においては、平等であるという意味にもなります。〈寂〉とは、〈大調和した状態〉をいいます。すべてのものが生々発展しながらも大きく調和している、はつらつとした理想の状態のことです。

お釈迦さまは、なおお言葉を続けられ、「ところが、多くの人びとはこの真理を知らず、目の前

そこで大莊嚴菩薩は、仏さまに「わたくしども菩薩が、回り道をしないで、まっすぐに仏の境地へ達するためには、どんな修行をしたらよろしいのでしょうか」と質問します。それに対して、次のようにお教えになるのです。

にあらわされた現象だけを見て、これは得だ、これは損だなどと勝手な計算をして、不善の心を起こし、さまざまな悪い行為をし、そのためにさまざまな苦しみを受けるばかりで、いつまでたっても、その誤った境界から抜け出しができないのです。

菩薩の皆さん。このことをはっきり見極めて、衆生に対するあわれみの心を起こし、人びとを苦しみから完全に救い出してあげようと決心しなさい。その目的を果たすために、またまた深く一切の物事の実相を見極める修行をすることが大切です」

と、人生苦の根本原因を示され、人間の苦しみを救う菩薩としての根本的な心構えを教えられます。そして、今度は、現象面における差別の相や、その移り変わる状態をもよく観察せよと教えられて、次のようにお説きになります。



無量義は一法より生ず

「多くの人びとの機根や、性質や、欲望の相をしつかり観察しなければなりません。人びとの機根も、性質も、欲望も千差万別ですから、それぞれの人に説く教えも、当然千差万別にならざるをえません。

ところが、その数かぎりない、千差万別の教えも、もともとは一つの真理(法)から生ずるものでなければなりません

せん。そのただ一つの真理とは、すなわち無相(特定の相のないもの)であり、そのような無相は一切の差別がなく、差別をつくるないもの(不相)であり、一切の差別をつくるないから、一切が平等であり、これを名づけて実相というのです」

ここに、仏法における〈実相〉という言葉の意味が、

はっきりと示されています。普通実相といえば、単に〈ほんとうの相〉というぐらいの意味に解されていますが、諸法実相などという場合の〈実相〉というのは、このような深遠な意味であることを記憶しておかなければなりません。ですから、凡夫にとって〈実相〉ということをほんとうに理解することは、ここではまだできないのです。

さらに大莊嚴菩薩は次のように問います。

「世尊は、いまあらためて無量義の教えをお説きくださいました。(それは根本において、今までの教えと変わりはないようにぞんじますが)今までの教えの内容とどのような違いがあるために、この無量義の教えを修めさえすれば、まっすぐに無上の悟りへ達することができるとおおせになるのでしょうか」

そこでお釈迦さまは、次のようにお答えになりました。



四十余年には未だ真実を顕わさず

「わたしが菩提樹下で仏の悟りを得て、世の一切の事柄をながめてみると、いまの段階の衆生に対して、その悟りをそのまま説くのはかえってよくないという結論に達せざるをえませんでした。それゆえ、衆生の境遇や、機根や、性質や、欲望に応じて、それにふさわしい説き方をし、それぞれに救い導いてきたのです。

そういうふうに、衆生の程度に応じた説き方をしていますと、どうしても法の真実のすべてを打ち明ける機会はなかなかないものであって、ついにこの四十余年間、究極の真理をすっかり説き明かすことなく過ごしたわけです。

わたしが今まで説いてきたことは、すべて同じ真理に基づくものです。しかし、たとえば、どこの水でも水であることに変わりはありませんが、谷川と、溝と、池と、大海とはおのずから違うように、わたしの教えも、はじめの頃の教えと、中頃の教えと、いま説く教えと、まったく同一だとはいえない。言葉のうえでは同じように見えても、内容の深さにおいて違っているのです。

一切の諸仏の説く真理というものは、ただ一つしかありません。その一つの真理を、おおくの人びとが心に求める物事に応じて、さまざまな説き方をするのです。また、仏の本体というのもただ一つなのです。その一つの身が無数の身に変わり、その一つ一つの身が、また無数のはたらきの変化を示します。これがすなわち、仏というものの不可思議な境地なのです。声聞や縁覚程度の悟りの人はもちろんのこと、ほとんど仏に近くなった菩薩ですら、その境地をほんとうに知ることはできますまい。仏に

なってはじめて究め尽くされる境地であり、ただ仏だけがほんとうに知りうるもので、その仏の悟りを得るためにには、どうしても、いま説いた無量義ということを深く深く観じ、身に付けなければならないのです」

なるほどそのとおりです。〈すべての物事は性相空寂であり、一法より生じている〉と教えられてみると、頭のうえでは大体分かれます。しかし、それはあくまでも大体であって、心底からはっきり分かったといいきる人はまずありますまい。そのことを明らかに見極めるとなると、仏と同等の智慧を具えなければできることではありません。そうなつたらすでに仏です。ですから仏さまは、《妙法蓮華經》《方便品第二》で〈唯仏と仏と乃し能く諸法の実相を究尽したまえり〉とおおせられたわけです。

だからといって、われわれは絶望してはなりません。お弟子の中で智慧第一といわれた舍利弗でさえ、この《無量義經》のお説法では、まだ悟りを開けなかったのです。それゆえお釈迦さまは、この後で《妙法蓮華經》を根気よくお説きになって、一切衆生をその悟りへ導いてくださるので、ですから、この《無量義經》を読んで、すっかり分からなくとも、かまいません。ここではすべての物事の〈実相〉ということについて、おぼろげながらでも頭に描くことができれば、それで十分としなければなりますまい。

(庭野日敬著『法華三部經 各品のあらましと要点』
校成出版社, 2016年 [初版 1991年], p. 16-23)



「正行」は和を築く大切なものの

8月を迎えると“戦争”と“平和”という二つの言葉を思い浮かべます。

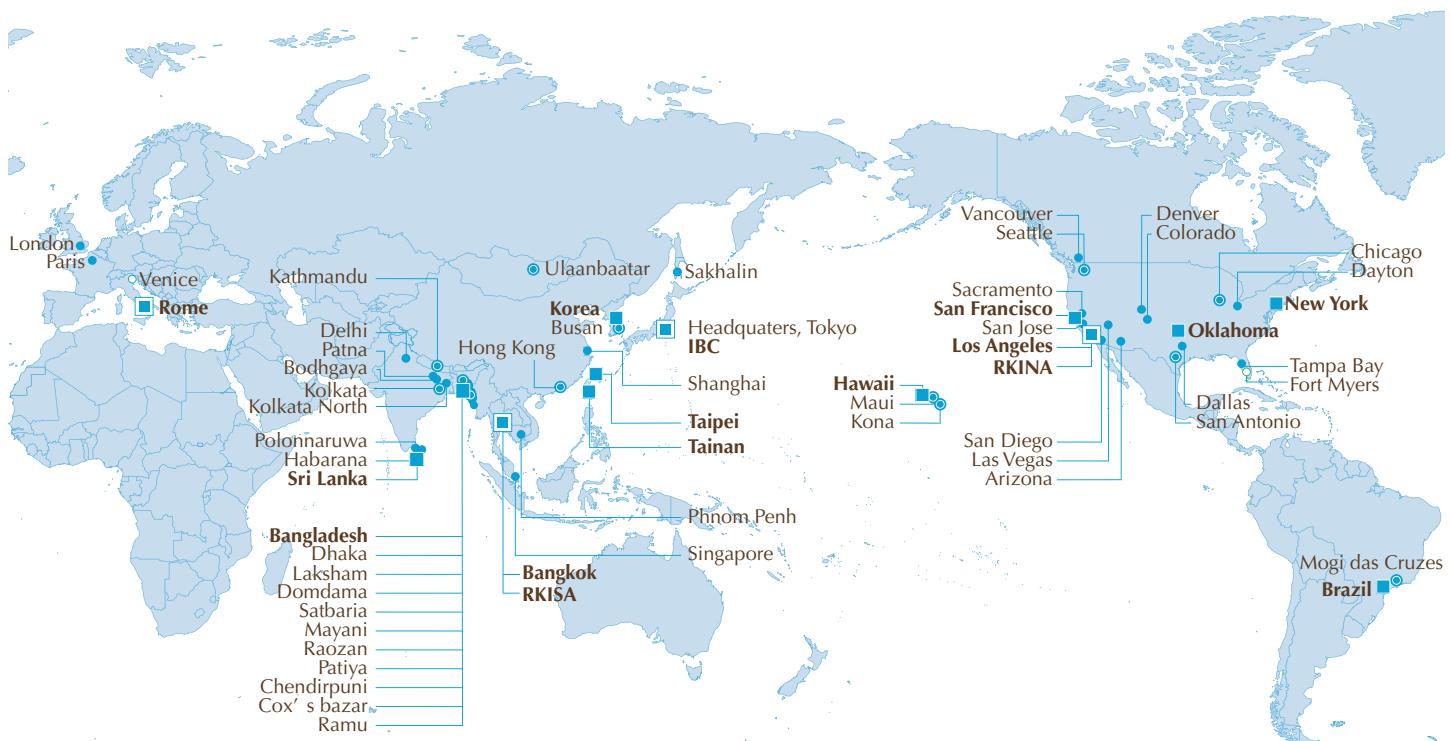
広島と長崎では「原爆の日」の式典が行なわれ、原爆の犠牲となられた多くの御靈に対して真心からご冥福を祈り、世界平和を祈念し、黙祷を捧げます。「安らかに眠って下さい 過ちは 繰返しませぬから」と…。

宗教者の平和に向けた行動としては、1986年にアッシジで「世界平和の祈り」が行なわれ、アッシジの精神を継承する「比叡山宗教サミット」が今でも8月に行なわれています。

会長先生はご法話で「正しい身の行ない（正行）」とは『敬と恥』に支えられたふるまいであり、その心と行ないは、人間関係から国家の関係に至るまで、そこに和を築く大切なものです」と確認くださいました。

身近なわが身の行ないを正していくところから、平和への一步を記していきたいものです。

国際伝道部長
齋藤 高市



 RISSHO KOSEI-KAI INTERNATIONAL BRANCHES 



Living the Lotus では、皆さんのご意見・ご感想を募集しています。

お問い合わせは、以下の E メールアドレスにお願い致します。

E メール : living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

Rissho Kosei-kai Overseas Dharma Centers 2018

Rissho Kosei-kai International

Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo, Japan
Tel: 81-3-5341-1124 *Fax:* 81-3-5341-1224

Rissho Kosei-kai International of North America (RKINA)

2707 East First Street Suite #1 Los Angeles CA 90033 U.S.A.
Tel: 1-323-262-4430 *Fax:* 1-323-262-4437
e-mail: info@rkina.org <http://www.rkina.org>

Branch under RKINA

Rissho Kosei-kai of Seattle's Buddhist Learning Center

28621 Pacific Highway South, Federal Way,
WA 98003 U.S.A.
Tel: 1-253-945-0024 *Fax:* 1-253-945-0261
e-mail: rkseattlewashington@gmail.com
<http://buddhistlearningcenter.org/>

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Antonio

6083 Babcock Road, San Antonio, TX 78240, U.S.A.
P.O. Box 692148, San Antonio, TX78269, USA
Tel: 1-210-561-7991 *Fax:* 1-210-696-7745
e-mail: dharmasanantonio@gmail.com
<http://www.rkina.org/sanantonio.html>

Rissho Kosei-kai of Tampa Bay

2470 Nursery Road, Clearwater, FL 33764, U.S.A.
Tel: (727) 560-2927 *e-mail:* rktampabay@yahoo.com
<http://www.buddhismtampabay.org/>

Rissho Kosei-kai of Vancouver

Rissho Kosei-kai Buddhist Church of Hawaii
2280 Auhuhu Street, Pearl City, HI 96782, U.S.A.
Tel: 1-808-455-3212 *Fax:* 1-808-455-4633
e-mail: info@rkhawaii.org <http://www.rkhawaii.org>

Rissho Kosei-kai Maui Dharma Center

1817 Nani Street, Wailuku, HI 96793, U.S.A.
Tel: 1-808-242-6175 *Fax:* 1-808-244-4625

Rissho Kosei-kai Kona Dharma Center

73-4592 Mamalahoa Highway, Kailua-Kona,
HI 96740 U.S.A.
Tel: 1-808-325-0015 *Fax:* 1-808-333-5537

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

2707 East First Street, Los Angeles, CA 90033, U.S.A.
Tel: 1-323-269-4741 *Fax:* 1-323-269-4567
e-mail: rk-la@sbcglobal.net <http://www.rkina.org/losangeles.html>

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Arizona

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Colorado
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Diego
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Las Vegas
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Dallas

Rissho Kosei-kai of San Francisco

1031 Valencia Way, Pacifica, CA 94044, U.S.A.
Tel: 1-650-359-6951
e-mail: info@rksf.org <http://www.rksf.org>

Rissho Kosei-kai of Sacramento

Rissho Kosei-kai of San Jose

Rissho Kosei-kai of New York

320 East 39th Street, New York, NY 10016 U.S.A.
Tel: 1-212-867-5677 *Fax:* 1-212-697-6499
e-mail: rkny39@gmail.com <http://rk-ny.org/>

Rissho Kosei-kai of Chicago

1 West Euclid Ave., Mt. Prospect, IL 60056 U.S.A.
Tel : 1-773-842-5654 *e-mail:* murakami4838@aol.com
<http://home.earthlink.net/~rkchi/>

Rissho Kosei-kai of Fort Myers

<http://www.rkftmyersbuddhism.org/>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Oklahoma

2745 N.W. 40th Street, Oklahoma City, OK 73112 U.S.A.
Tel & Fax: 1-405-943-5030
e-mail: rkokdc@gmail.com <http://www.rkok-dharmacenter.org>

Rissho Kosei-kai, Dharma Center of Denver

1255 Galapago Street, #809 Denver, CO 80204 U.S.A.
Tel: 1-303-446-0792

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Dayton

425 Patterson Road, Dayton, OH 45419 U.S.A.
<http://www.rkina-dayton.com/>

Risho Kossei-kai do Brasil

Rua Dr. José Estefno 40, Vila Mariana, São Paulo-SP,
CEP 04116-060 Brasil
Tel: 55-11-5549-4446 / 55-11-5573-8377
Fax: 55-11-5549-4304
e-mail: risho@terra.com.br <http://www.rkk.org.br>

Risho Kossei-kai de Mogi das Cruzes

Av. Ipiranga 1575-Ap 1, Mogi das Cruzes-SP,
CEP 08730-000 Brasil
Tel: 55-11-5549-4446 / 55-11-5573-8377

Rissho Kosei-kai of Taipei

4F, No. 10 Hengyang Road, Jhongjheng District,
Taipei City 100 Taiwan
Tel: 886-2-2381-1632 *Fax:* 886-2-2331-3433
<http://kosei-kai.blogspot.com/>

Rissho Kosei-kai of Tainan

No. 45, Chongming 23rd Street, East District,
Tainan City 701 Taiwan
Tel: 886-6-289-1478 *Fax:* 886-6-289-1488

Korean Rissho Kosei-kai

6-3, 8 gil Hannamdaero Yongsan gu, Seoul, 04420, Republic of Korea
Tel: 82-2-796-5571 *Fax:* 82-2-796-1696
e-mail: krkk1125@hotmail.com

Korean Rissho Kosei-kai of Busan

3F, 174 Suyoung ro, Nam gu, Busan, 48460, Republic of Korea
Tel: 82-51-643-5571 *Fax:* 82-51-643-5572

Branches under the Headquarters**Rissho Kosei-kai of Hong Kong**

Flat D, 5/F, Kiu Hing Mansion, 14 King's Road,
North Point, Hong Kong, Republic of China

Rissho Kosei-kai of Ulaanbaatar

15F Express tower, Peace avenue, khoroo-1, Chingeltei district,
Ulaanbaatar 15160, Mongolia
Tel: 976-70006960 *e-mail:* rkkmongolia@yahoo.co.jp

Rissho Kosei-kai of Sakhalin

4 Gruzinski Alley, Yuzhno-Sakhalinsk
693005, Russian Federation
Tel & Fax: 7-4242-77-05-14

Rissho Kosei-kai di Roma

Via Torino, 29-00184 Roma, Italia
Tel & Fax : 39-06-48913949 *e-mail:* roma@rk-euro.org

Rissho Kosei-kai of the UK

Rissho Kosei-kai of Venezia
Rissho Kosei-kai of Paris

International Buddhist Congregation (IBC)

Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo, Japan
Tel: 81-3-5341-1230 *Fax:* 81-3-5341-1224
e-mail: ibcrk@kosei-kai.or.jp <http://www.ibc-rk.org/>

Rissho Kosei-kai of South Asia Division

201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkok, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 *Fax:* 66-2-716-8218

Rissho Kosei-kai International of South Asia (RKISA)

201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkok, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 *Fax:* 66-2-716-8218
e-mail: thairissho@csloxinfo.com

Branches under the South Asia Division**Rissho Kosei-kai of Delhi**

77 Basement D.D.A. Site No. 1, New Rajinder Nagar, New Delhi
110060, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata

E-243 B. P. Township, P. O. Panchasayar, Kolkata 700094, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata North

AE/D/12 Arjunpur East, Teghoria, Kolkata 700059,
West Bengal, India

Rissho Kosei-kai of Bodhgaya

Ambedkar Nagar, West Police Line Road
Rumpur, Gaya-823001, Bihar, India

Rissho Kosei-kai of Kathmandu

Ward No. 3, Jhamsilhel, Sancepa-1, Lalitpur,
Kathmandu, Nepal

Rissho Kosei-kai of Phnom Penh

#201E2, St 128, Sangkat Mittapheap, Khan 7 Makara,
Phnom Penh, Cambodia

Rissho Kosei-kai of Patna

Rissho Kosei-kai of Singapore

Thai Rissho Friendship Foundation

201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkok, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 *Fax:* 66-2-716-8218 *e-mail:* info.thairissho@gmail.com

Rissho Kosei-kai of Bangladesh

85/A Chanmari Road, Lalkhan Bazar, Chittagong, Bangladesh
Tel & Fax: 880-31-626575

Rissho Kosei-kai of Dhaka

House#408/8, Road#7(West), D.O.H.S Baridhara,
Dhaka Cant.-1206, Bangladesh
Tel: 880-2-8413855

Rissho Kosei-kai of Mayani

Mayani(Barua Para), Post Office: Abutorab, Police Station: Mirshari,
District: Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Patiya

Patiya, sadar, Patiya, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Domdama

Domdama, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Cox's Bazar

Ume Burmese Market, Main Road Teck Para, Cox'sbazar, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Satbaria

Satbaria, Hajirpara, Chandanish, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Laksham

Dupchar (West Para), Bhora Jatgat pur, Laksham, Comilla,
Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Raozan

West Raozan, Ramjan Ali Hat, Raozan, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Chendipuni

Chendipuni, Adhunagor, Lohagara, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Ramu**Rissho Kosei Dhamma Foundation, Sri Lanka**

No. 628-A, Station Road, Hunupitiya, Wattala, Sri Lanka
Tel: 94-11-2982406 *Fax:* 94-11-2982405

Rissho Kosei-kai of Habarana

151, Damulla Road, Habarana, Sri Lanka

Rissho Kosei-kai of Polonnaruwa**Other Groups**

Rissho Kosei-kai Friends in Shanghai